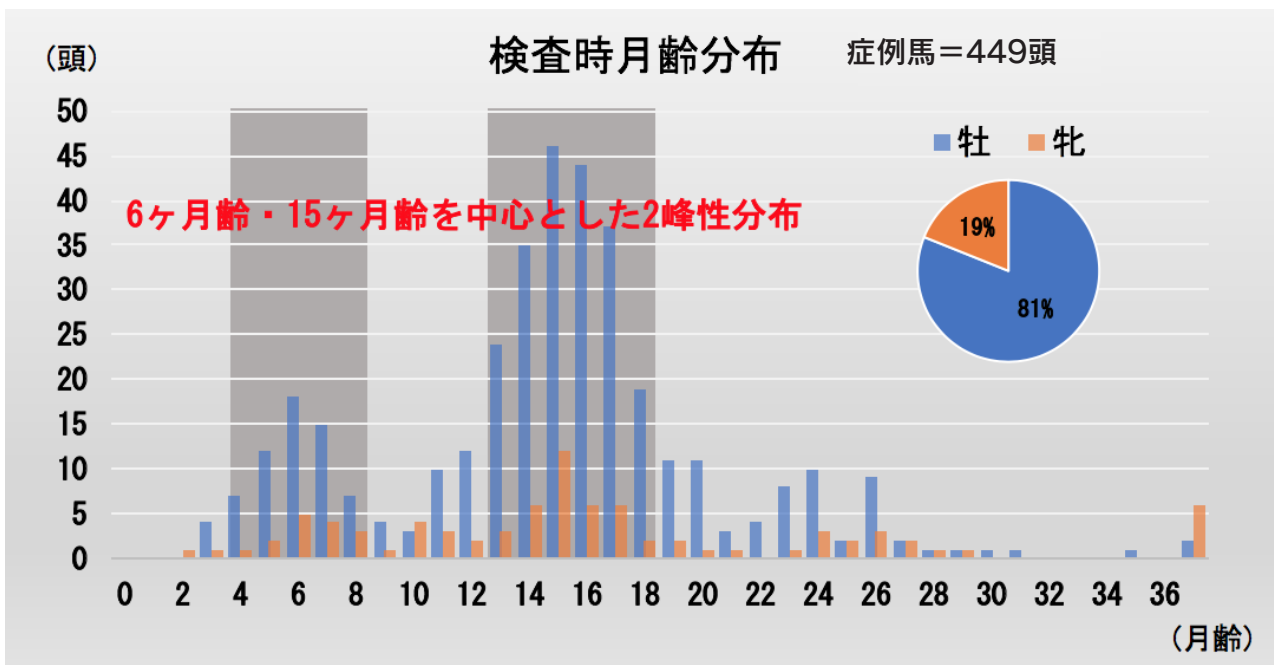


ウォブラー症候群について

静内診療所 池田寛樹

ウォブラー症候群（腰フラ）とは、頸椎（頸部の骨）の形成、成長異常によって脊髄神経が圧迫されることで、主に後肢の運動失調や感覚麻痺を引き起こす病気です。そのほとんどが2歳以下の若馬において認められます。過去8年間において発症を疑い検査を実施した症例馬449頭（NOSAIみなみ三石家畜高度医療センター、HBA静内で実施）の調査*では、雄が81%と多く、また月齢においては6ヶ月齢と15ヶ月齢を中心とした2峰性分布を示しました（図）。この時期は急激に骨格が成長する時期であり、夏から秋にかけての放牧時間が長くなる時期でもあります。発症要因としては、主に栄養バランスの乱れや急激な成長、運動ストレスに加えて、遺伝的素因が疑われています。OCDや骨端症、腱拘縮（突球）など他の成長期疾患と併発することもあります。発症馬に関して、基本的には競走馬としての予後は悪い病気ですが、発症早期の内科的治療や食餌療法、運動制限などによって症状の進行を抑え、30%が競走馬としてデビューできたという報告もあります。発症や進行を防ぐことはなかなか難しいかもしれませんが、普段から個々の成長に見合った栄養管理や放牧管理をしてあげることが、この病気に限ったことではないかもしれませんが、大切なこととなります。少しでも異常を感じた場合は、かかりつけの獣医師に早めに相談してみてください。

※生産地疾病等調査研究により実施



図：ウォブラー症候群症例馬449頭の検査時月齢分布と性別割合

月齢分布では、6ヶ月齢と15ヶ月齢を中心とした2峰性分布を認め、性別割合では牡が81%となった。年齢別では、1歳が67%と最も多く、次いで当歳（18%）、2歳（12%）であった。